

No.70

令和3年
4月-6月

ちばしんきん 景況レポート

NEWS report



INDEX

■ 企業Interview

株式会社ワインの薫り…… P1

株式会社小竹物産…… P2

■ 地域景気Report

全業種…… P3

サービス業…… P7

製造業…… P4

建設業…… P8

卸売業…… P5

不動産業…… P9

小売業…… P6

特別調査…… P10

■ 当面の市場レポート …… P11



CHIBA SHINKIN
BANK

千葉信用金庫

株式会社 ワインの薫り

コンセプトは「ワインの薫り」 経営者自ら行動し、コロナ禍もチャンスに変える

あらゆる食材で「ワイン風味」の珍味を開発

水産珍味の製造・販売を行う食品加工業者の株式会社ワインの薫り。その社名のとおり「ワイン」にこだわり、水産食材に留まらず、肉や野菜など、ありとあらゆる「ワイン風味」の食材を開発している。中でも、ワイン風味のスモークサーモンは、塩味、食感、色、香りなどを徹底的につきつめ、製造工程の全てを手作業で丁寧に行って、日本人好みに作ったという同社の看板商品だ。

代表取締役の大平若松氏は、元来、さまざまなことに興味があるタイプだと言う。「半農半漁の長崎の田舎で漁師の息子として育ち、水産珍味を作ることに興味がありました。いろいろなカテゴリーの珍味にトライしたかったので、『ワイン風味』という幅のあるコンセプトを専門とする会社になりました。燻製や酢漬、佃煮、フレーク、ジャーキーなど、ニーズに合わせた食材の加工を行っています」。独立前に勤めた珍味会社や佃煮メーカーなどで培った知識と技術に好奇心が合わさり、独創的な食品を次々に生み出している。



代表取締役 大平若松氏

ピンチの後はチャンス！ 粘り強い前進で活路を

同社の売上シェアの約 8 割はホテルやレストランの業務用。コロナの影響をもろに受け、緊急事態宣言下は前年の 1 ～ 2 割までに売上が激減した。内食需要の増加でスーパーなどの小売店向けの売上は約 1.5 倍になったものの、全体で 3 ～ 4 割の減少、宣言解除後も前年レベルまで回復せず、現在は支援金や借入で事業をつないでいる状況だ。

厳しい状況下で、大平氏は着々と次なるステップへの準備を行っていた。「時間に余裕ができたので、工場の修理等を自分で足場を組んで行いました。売上にはつながりませんが、財務面では資産価値を上げたと考えていま

す」。簿記から会計まですべて自ら行うことで、「会社の通知表」である財務諸表で経営状況をつぶさに把握でき、ピンチにもすぐに対応できるという。

「なんでも自分でやる」というこの姿勢は、アメリカの水産会社の経営者から学んだ。「彼らは溶接から車の修理、大型船の操縦まで全て自分でやる。フロンティア精神がそこかしこに見られました」。これまでの経験から、ピンチの後にはチャンスが必ずくる！という大平氏。コロナでのネット活況も販路拡大のチャンスと感じている。苦しくとも粘り強く前進し、活路を見出したいと話してくれた。

企業 DATA

株式会社 ワインの薫り

住所：千葉県佐倉市臼井 1832-4
TEL：043 - 489 - 1895
創業：2001 年 3 月
URL：https://winenokaorico.at.webry.info



冷凍処理してあるのでギフトにも最適

株式会社 小竹物産

強みを活かしてさらなる躍進を狙う 「千葉に小竹物産あり」と言われる会社を目指して

欲しい部位を欲しいだけ、無駄を省いたパーツ仕入れ

食肉卸売業をメインに、カタログ通信販売、千葉と東京の月島に直営のホルモン焼肉店 2 店舗も展開する株式会社小竹物産。その特徴は、1 頭買いではなくパーツで仕入れる点だ。常時 40 ～ 50 社と取引を行い、仕入れる量や部位は、その時の状況や卸先のニーズ・注文に合わせて調整して、無駄を省いている。

近年は、食肉のカタログ通信販売も好調だ。パーツ仕入れのメリットを活かして、「仕入れ先が少ない」「なかなか欲しい部位が手に入れない」という地方店からのニッチなニーズにも応えている。北海道から沖縄離島まで、月に常時 500 件程度の注文が入るといふ。

社員やスタッフの教育にも力を入れていると、代表取締役の小竹裕介氏は話す。「挨拶と時間が守れることが絶対条件です。どのお客さまや得意先、納品業者に対しても、気持ちよい挨拶が仕事への第一歩。銀行関係や保険関係の営業さんからも褒めの言葉をいただきますよ」。人とのつながりを大事にする姿勢で、企業としても着実に成長を続けている。



代表取締役 小竹裕介氏

コロナ禍での気づきで事業の方向性が明確に

外食産業と直接的に結びついている精肉卸売業。コロナの影響は避けられず、とくに店舗の売上減少は覚悟していた。しかし、小竹氏の想定を超えていたのは別の側面だった。「正直、お酒の提供がこれほどまでに店舗経営に影響するとは想像していませんでした。収支のバランスが悪くなり、食事とお酒は一体なのだと分かりました」。

また、柔軟な姿勢でその時々ニーズに合った商売をする必要性を、今回改めて感じたという。「食は人が生きていく上で欠かせないものです。しかし、外食、中食、

内食と、時代や状況で食の文化やスタイルは変わる。経営者の仕事は『決断力』と『資金繰り』の 2 つ。状況判断と決定を間違わないよう各方面にアンテナをはり、自信をもつことが大事だと思っています」。

コロナ前までは大きく広げていた視野を、コンパクトにまとめる方向に転換したという小竹氏。今後は通信販売のノウハウから、一般顧客向けネット販売に力を入れていく方針だ。コロナ禍を契機に、より明確になった事業の方向性。これからの発展に期待がもてる。

企業 DATA

株式会社 小竹物産

住所：千葉県千葉市中央区都町 2-31-5
TEL：043 - 497 - 3614
創業：2009 年 10 月
URL：http://kotake-bussan.com



大人気の「朝市」には特売目的に行列ができる

全業種

■当期の業況について、小売業・建設業を除いて改善したが、依然として厳しい水準のなかでの改善となる

■来期の業況について、製造業が小幅な悪化を見込んでいるが、その他は改善を予想している

当期の業況は、「小売業」、「建設業」を除いて改善の兆しが窺えるものの、業況判断DIは▲27.8と前回調査時点と変化はなく依然厳しい水準となっています。

売上高については、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の再発出等の影響により前回調査時点と変化はなく厳しい状況が続いています。

販売価格の改善がみられるものの、それを上回る仕入価格の上昇幅の拡大が要因となり、収益についても、前回調査時点と変化がありませんでした。

資金繰りについては、コロナ関連融資や各種補助金等の影響により改善がみられています。

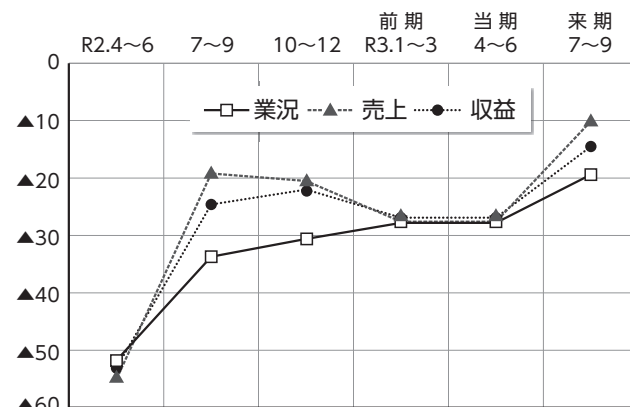
来期予測について、政府が掲げる、1日あたり100万回という新型コロナワクチンの接種目標が7月末までに達成され、感染者数が減少傾向に転じるだろうという期待感から、売上高や収益の減少幅は縮小し、業況DIは8.4ポイント改善すると見込まれています。

「卸売業」においては仕入価格、販売価格の上昇幅が拡大すると予想されていますが、それ以外の業種では仕入価格、販売価格ともに上昇幅が縮小すると見込んでおり、全業種平均では上昇幅が縮小すると予測されています。

資金繰りについては横ばいであり、業況回復を見込んでいても長期間に亘る新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況が続くものと推測されます。

DI項目	前年同期 R2.4~ R2.6	前期 R3.1~ R3.3	当期 R3.4~ R3.6	来期(予測) R3.7~ R3.9
業況	▲ 51.8	▲ 27.8	▲ 27.8	▲ 19.4
売上高	▲ 55.1	▲ 27.6	▲ 27.6	▲ 10.1
収益	▲ 53.1	▲ 26.9	▲ 26.9	▲ 14.5
販売価格	▲ 12.1	▲ 4.9	1.5	0.8
仕入価格	2.8	13.8	23.6	21.3
在庫	▲ 3.0	▲ 2.8	▲ 5.1	▲ 5.1
資金繰り	▲ 28.1	▲ 9.4	▲ 8.4	▲ 8.6

主要判断DIグラフ



調査概要

本調査は、当金庫お取引先のご協力を得て調査したものです。当金庫営業地域の経済動向把握と共に、地域の中小企業の皆様に経営の参考にしていただくためにまとめたものです。

■調査対象時期 当期(令和3年4月~6月)、来期(今後3ヶ月:令和3年7月~9月の見通し)

■調査企業先数 当金庫お取引先492社 有効回答数468社
(内訳:製造業74社、卸売業45社、小売業105社、サービス業86社、建設業96社、不動産業62社)

■DIの説明

DIとは、「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽」と答えた企業割合から「悪い」「減少」「下降」「不足」「苦しい」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。「良い」には「やや良い」を含み、「悪い」には「やや悪い」を含みます。「増加」「減少」等、他の項目も同様です。

これら数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさの程度によって、景気変化の方向を時系列的な推移の中で分析することを目的としています。

製造業

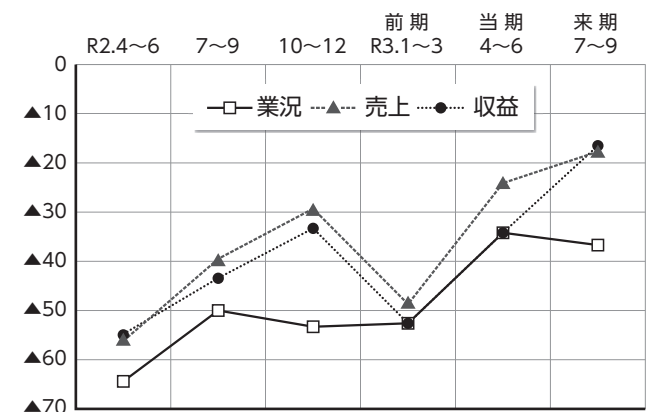
当期は改善、
来期は当期に比べ悪化と予測

製造業の当期の業況判断DIは▲34.2と、前期と比べ18.4ポイント改善しました。販売価格は若干下降幅が縮小したものの、原材料価格が3期連続して上昇幅が拡大しており、資金繰りの厳しさが増えています。一方、売上高、収益は減少幅の大幅な縮小により、業況は改善しました。

来期予測について、売上高、収益ともに減少幅が縮小すると見込まれているものの、業況DIは2.5ポイント悪化すると予想されています。

DI項目	前年同期 R2.4~ R2.6	前期 R3.1~ R3.3	当期 R3.4~ R3.6	来期(予測) R3.7~ R3.9
業況	▲ 64.4	▲ 52.6	▲ 34.2	▲ 36.7
売上高	▲ 56.2	▲ 48.7	▲ 24.1	▲ 17.7
受注残	▲ 49.3	▲ 39.5	▲ 22.8	▲ 12.7
収益	▲ 54.8	▲ 52.6	▲ 34.2	▲ 16.5
販売価格	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 6.3	▲ 3.8
原材料価格	11.0	25.0	32.9	29.1
原材料在庫	6.9	5.3	5.1	3.8
資金繰り	▲ 32.9	▲ 13.2	▲ 15.2	▲ 13.9
設備状況	▲ 15.1	▲ 17.1	▲ 10.1	▲ 8.9

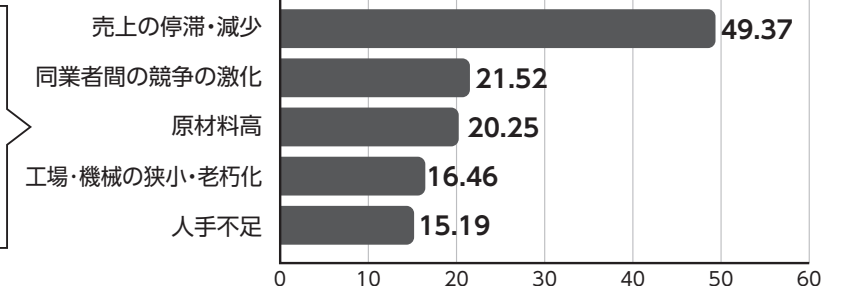
主要判断DIグラフ



製造業における経営上の問題点と重点経営施策について(複数回答)

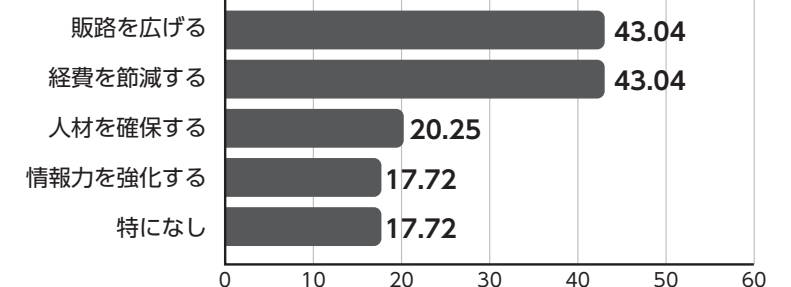
経営上の 問題点

上位5項目(%)



当面の 重点経営施策

上位5項目(%)



調査員コメント

- ・アメリカ・中国の影響を受けた世界的な鉄価格の高騰により国内製鉄メーカーの販売価格が急激に上昇し、大きな影響を受けている。(金属加工業)
- ・歯科医院の診療控えが発生し、受注量が低下。材料費が高騰しており、受注に影響が出ている。(歯科技工)
- ・同業他社の廃業がぼつぼつ見られ、事業継続に関し危機を感じている。プラスチック容器の需要は回復傾向にあり、売れ筋商品を見極めて推進していく方針。(プラスチック容器製造販売)
- ・新型コロナウイルスの影響による休校で学校給食等の売上減少。また、法事等の自粛により売上減少。(和洋菓子パン)
- ・自動車関連受注が増加傾向。業況は安定しており資金繰りも懸念なし。(カーボン)

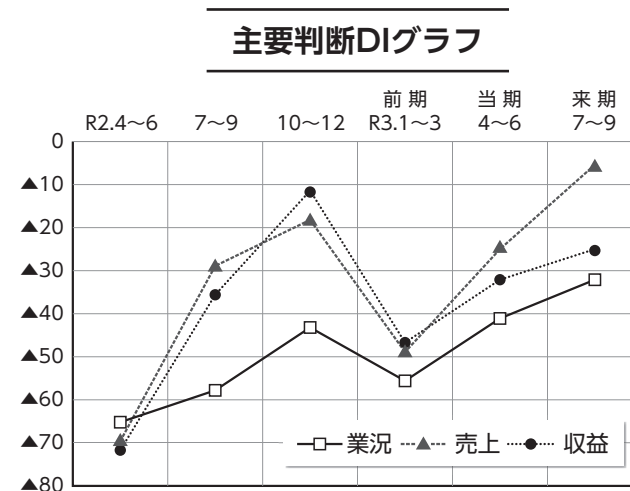
卸売業

当期は改善、
来期も当期に比べ改善と予測

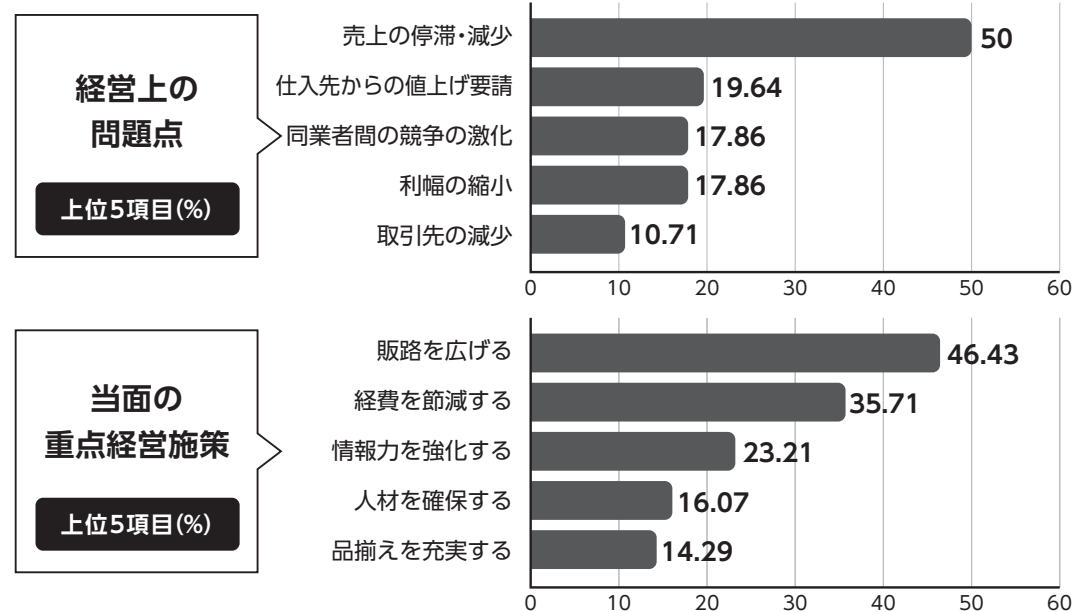
卸売業の当期の業況判断DIは▲41.1と、前期と比べ14.5ポイント改善しました。仕入価格の上昇幅は拡大したものの、売上高と収益の減少幅は縮小しました。

来期予測について、売上高や収益の減少幅の縮小に伴い、業況DIは9ポイント改善すると見込まれていますが、仕入価格の上昇幅がさらに拡大し、資金繰りの厳しさが増すと予想されています。

DI項目	前年同期 R2.4~ R2.6	前期 R3.1~ R3.3	当期 R3.4~ R3.6	来期(予測) R3.7~ R3.9
業況	▲ 65.2	▲ 55.6	▲ 41.1	▲ 32.1
売上高	▲ 69.6	▲ 48.9	▲ 25.0	▲ 5.4
収益	▲ 71.7	▲ 46.7	▲ 32.1	▲ 25.0
販売価格	▲ 15.2	0.0	7.1	16.1
仕入価格	6.5	15.6	26.8	33.9
在庫	2.2	2.2	▲ 3.6	1.8
資金繰り	▲ 28.3	▲ 11.1	▲ 7.1	▲ 8.9
設備状況	▲ 4.4	▲ 8.9	▲ 7.1	▲ 8.9



卸売業における経営上の問題点と重点経営施策について(複数回答)



調査員コメント

- ・販売先が成田空港内の売店、ホテルの売店などであり、本来ならば安定した売上を計上が可能であるが、新型コロナウイルスの影響で客足が鈍く、売上が低調な状況。(菓子類)
- ・長期化するコロナ禍において、飲食業者の時短営業等による受注減少が発生しており、減収が生じている。今後は販路拡大を図るべく、医療機関への推進に注力していく方針。(硝子加工品)
- ・飲食店との取引が多く、新型コロナウイルスの影響(アルコール提供の禁止)により、取引先が休業するケースが多く、売上の維持に苦慮している。(国産輸入 牛、豚、鶏肉)
- ・新型コロナウイルスの影響により、ショッピングモール等に出店している分の売上は一時減少したものの現在は売上回復しており、業況堅調に推移している。(水産加工品)

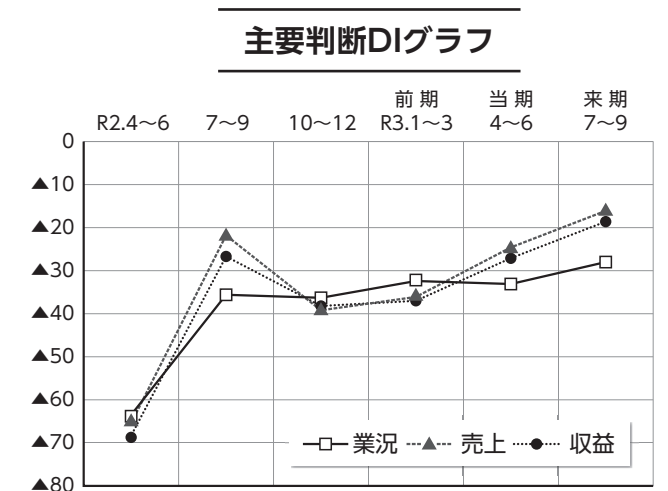
小売業

当期は小幅に悪化、
来期は当期に比べ改善と予測

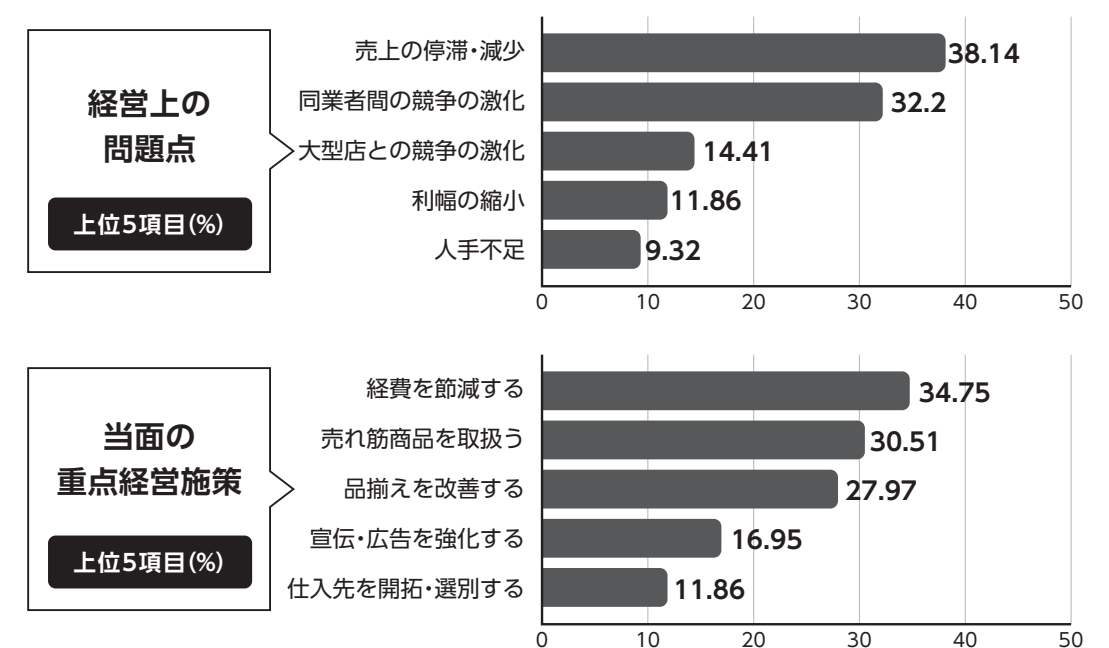
小売業の業況判断DIは▲33.1で、前期と比べ0.7ポイント悪化しましたが、当期の売上高は11.5ポイント、収益は9.9ポイント減少幅が縮小しました。

来期予測について、販売価格、仕入価格ともに上昇幅が縮小し、資金繰りの厳しさが弱まりました。売上高と収益の減少幅はさらに縮小し、業況判断DIも5.1ポイント改善すると見込まれています。

DI項目	前年同期 R2.4~ R2.6	前期 R3.1~ R3.3	当期 R3.4~ R3.6	来期(予測) R3.7~ R3.9
業況	▲ 63.5	▲ 32.4	▲ 33.1	▲ 28.0
売上高	▲ 65.4	▲ 36.1	▲ 24.6	▲ 16.1
収益	▲ 68.3	▲ 37.0	▲ 27.1	▲ 18.6
販売価格	▲ 6.7	▲ 4.6	6.8	2.5
仕入価格	▲ 1.0	10.2	16.9	13.6
在庫	▲ 1.9	▲ 1.9	3.4	0.8
資金繰り	▲ 37.5	▲ 15.7	▲ 11.0	▲ 8.5
設備状況	▲ 11.5	▲ 13.9	▲ 11.9	▲ 11.9



小売業における経営上の問題点と重点経営施策について(複数回答)



調査員コメント

- ・地元での営業年数は長い、大型店との競争が激化しており、危機感を感じている。(家電製品)
- ・新型コロナウイルスの対策としてアルコール消毒等していたためか、インフルエンザの薬があまり出なかった。(医薬品)
- ・市内、小・中学校の電子黒板、屋外AEDの設置に伴い一時的に売上が増加している。(学校教材)
- ・新型コロナウイルスの影響でインターネットでの販売比率が上がっている。(ピーナッツ製品)
- ・新型コロナウイルスの影響から酒類を提供する飲食店の業況は依然として厳しく、酒類の卸業は低調であるが反面、店売り(コンビニ)は巣籠の影響から好調である。(酒、たばこ、食料品)

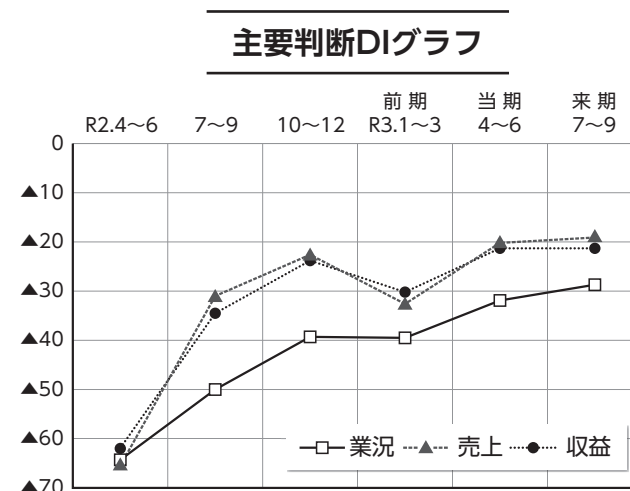
サービス業

当期は改善、
来期も当期に比べ改善と予測

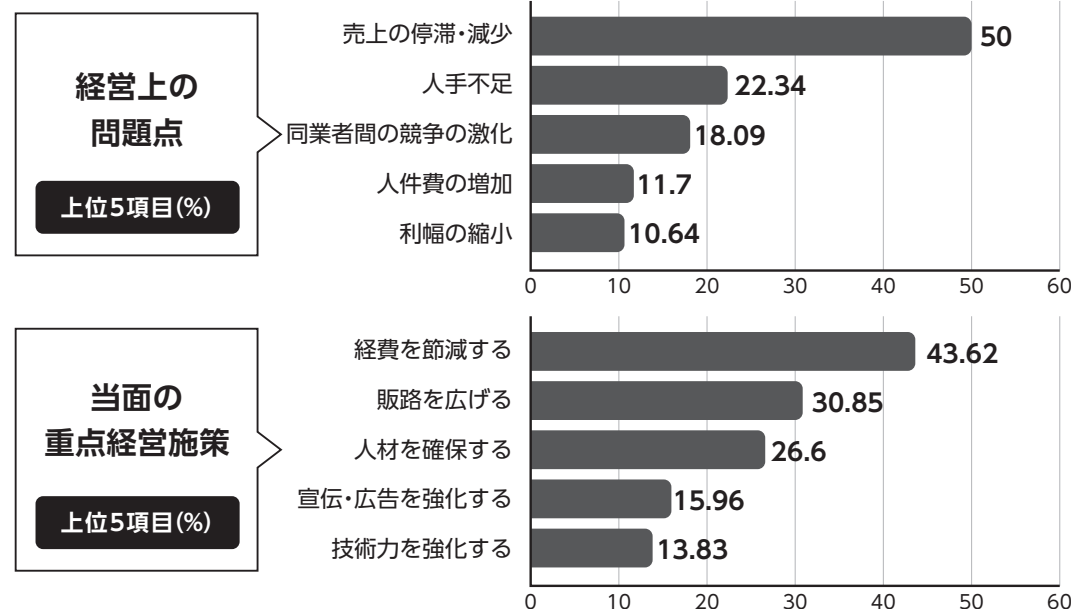
サービス業の当期の業況判断DIは▲31.9で、前期と比べ7.6ポイント改善しました。料金価格は下降幅が縮小したものの、材料価格の上昇幅が拡大したため、資金繰りの厳しさが増しました。

来期予測について、売上高、収益はほぼ横ばいと見込まれていますが、業況DIは3.2ポイント改善すると予想されています。

DI項目	前年同期 R2.4~ R2.6	前期 R3.1~ R3.3	当期 R3.4~ R3.6	来期(予測) R3.7~ R3.9
業況	▲ 64.3	▲ 39.5	▲ 31.9	▲ 28.7
売上高	▲ 65.5	▲ 32.6	▲ 20.2	▲ 19.1
収益	▲ 61.9	▲ 30.2	▲ 21.3	▲ 21.3
料金価格	▲ 15.5	▲ 7.0	▲ 3.2	▲ 5.3
材料価格	0.0	5.8	9.6	6.4
資金繰り	▲ 36.9	▲ 16.3	▲ 18.1	▲ 17.0
設備状況	▲ 16.7	▲ 9.3	▲ 10.6	▲ 8.5



サービス業における経営上の問題点と重点経営施策について(複数回答)



調査員コメント

- ・新型コロナウイルスの影響により、テレワーク増加傾向。売上の多くを占めるスーツ、ワイシャツのクリーニングが減少し、売上にも大きく影響している。(クリーニング取次)
- ・新型コロナウイルス流行の影響により、葬儀規模の縮小を余儀なくされ、売上減少。(葬儀業)
- ・中国より労働力を得るべく、実習生を入れていたが、コロナ禍の影響で日本への入国が困難になっており、今後人手不足が懸念される。(産業廃棄物収集運搬)
- ・新型コロナウイルスの影響を若干受けつつ通常どおり営業している。介護需要は高いが、若手職員の退職により人材確保が難しくなっている。(介護サービス)
- ・地元顧客や観光客に向けたレストラン、宿泊施設、マリナ等を営業。新型コロナウイルスの影響は依然として残るが、対策しながら営業を継続。(その他サービス業)

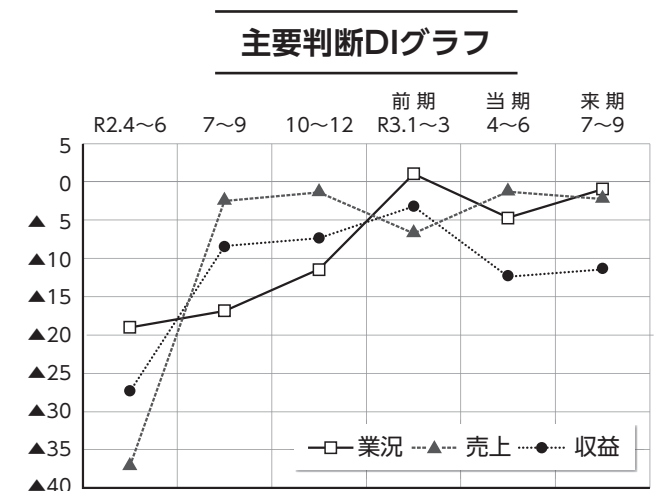
建設業

当期は悪化、
来期は当期に比べ改善と予測

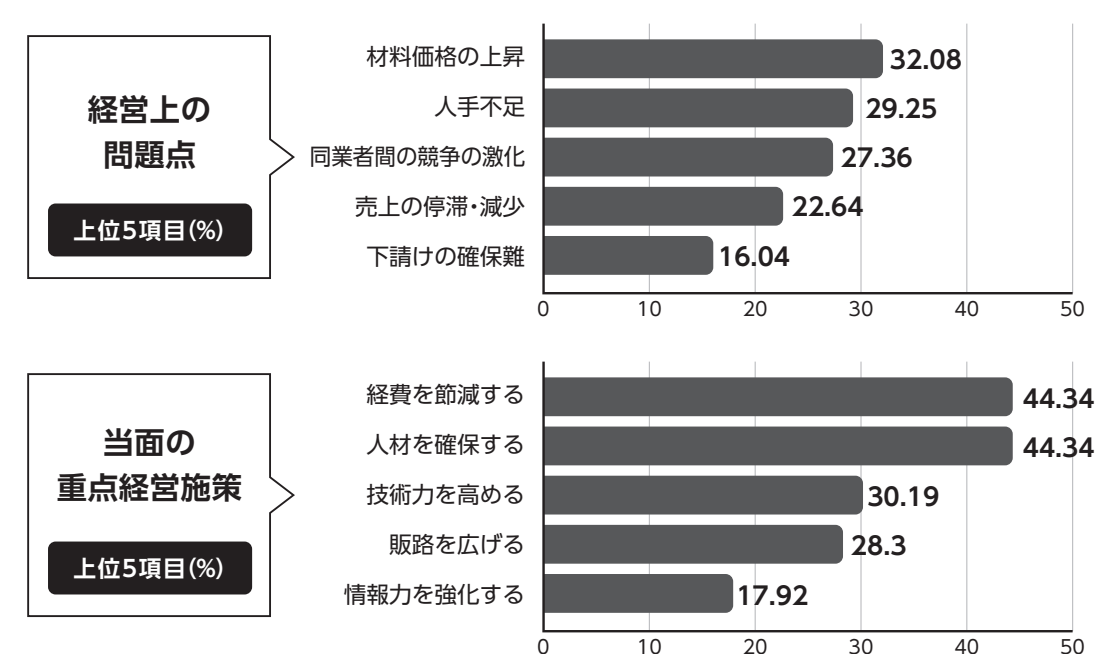
建設業の当期の業況判断DIは▲4.7で、前期と比べ5.8ポイント悪化しました。材料価格は上昇幅が大幅に拡大し、資金繰りの厳しさが若干強まりました。売上高の減少幅は縮小するものの、収益の減少幅が拡大し、業況が悪化しました。

来期予測について、材料価格はさらに上昇幅が拡大し、資金繰りの厳しさが強まると予想されています。売上高の減少幅は拡大するものの、収益の減少幅は縮小し、業況DIは3.8ポイント改善すると予想されています。

DI項目	前年同期 R2.4~ R2.6	前期 R3.1~ R3.3	当期 R3.4~ R3.6	来期(予測) R3.7~ R3.9
業況	▲ 19.0	1.1	▲ 4.7	▲ 0.9
売上高	▲ 36.8	▲ 6.3	▲ 0.9	▲ 1.9
受注残	▲ 32.6	▲ 8.4	▲ 6.6	1.9
施工高	▲ 29.5	▲ 8.4	▲ 7.5	▲ 2.8
収益	▲ 27.3	▲ 3.2	▲ 12.3	▲ 11.3
請負価格	▲ 14.7	▲ 9.5	▲ 4.7	▲ 5.7
材料価格	7.4	16.8	32.1	35.8
在庫	▲ 6.3	▲ 1.1	▲ 2.8	▲ 4.7
資金繰り	▲ 14.7	0.0	▲ 0.9	▲ 4.7
設備状況	1.1	0.0	0.9	▲ 0.9



建設業における経営上の問題点と重点経営施策について(複数回答)



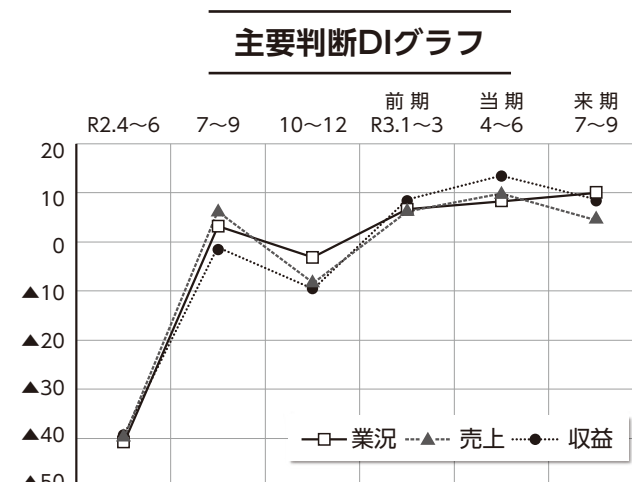
調査員コメント

- ・建築資材(木材)の不定が深刻となっており、今後の住宅建築に影響が懸念される。(一般住宅建築)
- ・今年度に入ってから公共工事の受注競争が激しくなったと感じる。(土木一式)
- ・大型工事の受注を予定しているが、材料費の高騰や人材確保の課題を抱えており、代取を中心に改善策を検討している。(電気設備、設計、施工)
- ・新型コロナウイルスの影響が大きかった昨年同時期に比べ、受注状況は回復している。(土木工事)
- ・受注は変わらず安定しているが、材料価格が上昇している。(外壁・屋根工事)

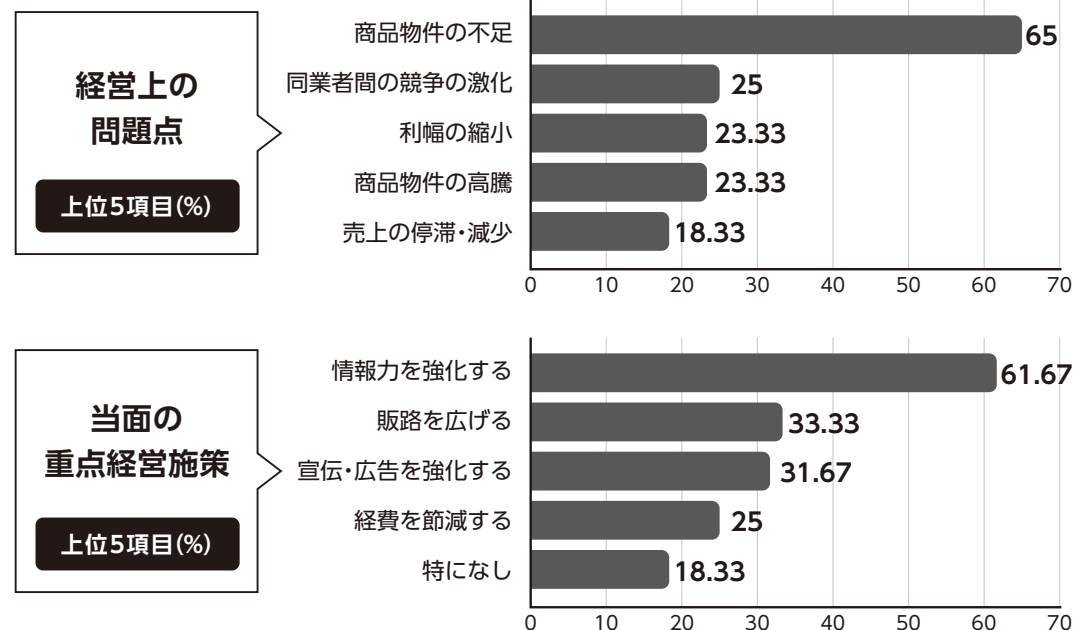
不動産業の当期の業況判断DIは8.3で、前期と比べ1.6ポイント改善しました。仕入価格は上昇が強まり、在庫は不足状況が強まりました。売上高、収益の増加幅は拡大し、資金繰りの厳しさが弱まりました。

来期予測について、販売価格、仕入価格ともに上昇幅が縮小と予想されています。また、売上高、収益についても上昇幅が縮小すると予測されるものの、業況DIは1.7ポイント改善すると見込まれています。

DI項目	前年同期 R2.4~ R2.6	前期 R3.1~ R3.3	当期 R3.4~ R3.6	来期(予測) R3.7~ R3.9
業況	▲ 41.0	6.7	8.3	10.0
売上高	▲ 39.3	6.7	10.0	5.0
収益	▲ 39.3	8.3	13.3	8.3
販売価格	▲ 14.8	6.7	15.0	10.0
仕入価格	▲ 6.6	11.7	33.3	16.7
在庫	▲ 19.7	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 45.0
資金繰り	▲ 14.8	3.3	5.0	3.3



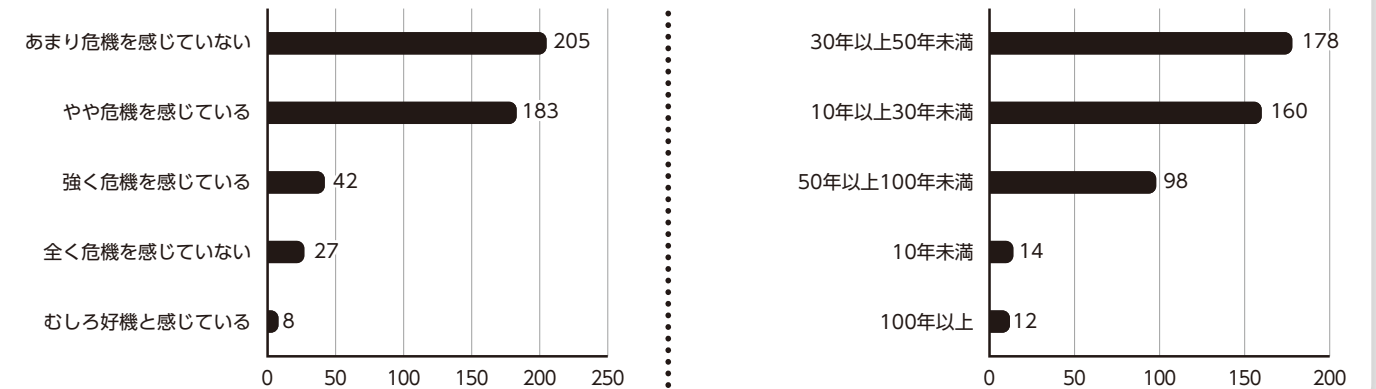
不動産業における経営上の問題点と重点経営施策について(複数回答)



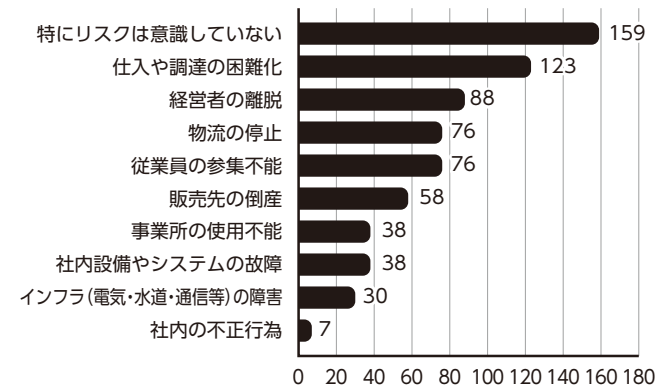
調査員コメント

- ・優良な商品(土地・建物)が不足している。建物の材料費の高騰、木更津の土地の高騰により、個人顧客の住宅ローンが通らなったり購入を見送るケースが多々ある。(不動産仲介)
- ・不動産市況は良好ながら、ウッドショックにより原価の増加懸念あり。(土地売買業)
- ・緊急事態宣言発令となると不動産市場も停滞するが解除後はその反動も期待できる。立地の良い物件については活発に動いているように見受けられる。(不動産販売)
- ・今期に入り、不動産販売が好調に推移。賃料収入も安定しており、業況順調に推移している。(不動産販売)

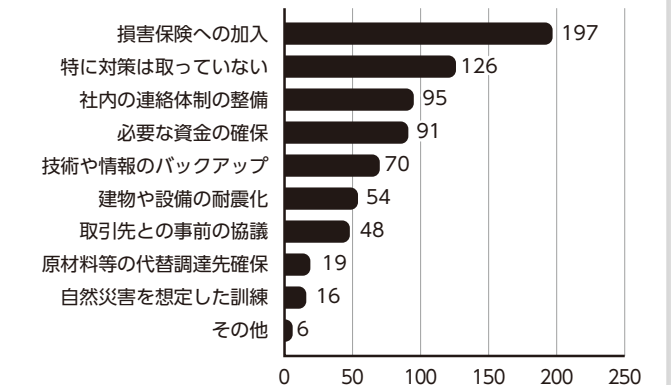
1 現下の状況を受けて、事業継続についてどう感じていますか。また、業歴を教えてください。 [有効回答数:465件(左)・462件(右)/単数回答]



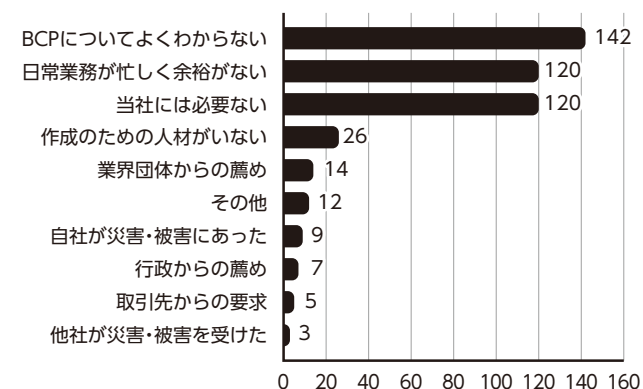
2 事業継続を困難化させる要因について、どのようなリスクを重視していますか。 [有効回答数:693件/複数回答]



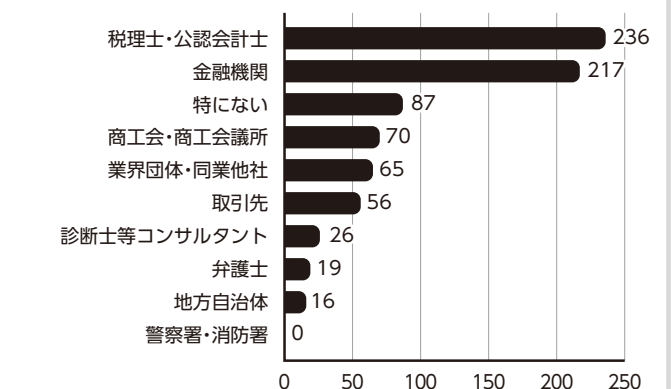
3 災害に備え、どのような対策を取っていますか。 [有効回答数:722件/複数回答]



4 「事業継続計画(BCP)」の作成をしている場合は、そのきっかけについて、作成していない場合は現在の状況を教えてください。 [有効回答数:458件/単数回答]



5 事業継続にあたって、常日頃から頼りにしている相談先はありますか。 [有効回答数:792件/複数回答]



当面の市場レポート

(金利・株価・為替) 予測一覧表

国内金利は、米長期金利の上昇により上昇圧力がかかるものの、日銀のイールドカーブコントロールと長短金利操作付き量的・質的金融緩和政策により金利の上昇余地は広がりにくい。3月の日銀政策決定会合ではコロナ感染症が続く下ではイールドカーブ全体を「低位安定」で優先させること、また感染終息を来年度と想定していることから少なくとも今年度は引き続き狭いレンジでの**横ばい推移を予想**します。

国内株式は、3月の日銀政策決定会合でETF買入の一部見直しの発表により株式市場の過熱感はやや和らいだ。しかし、欧米に遅れてはいるものの日本でもワクチン接種が開始したことや決算発表に伴い企業業績の回復が確認されたことで景気回復期待は高まっており、**年間を通じた方向感**は「**上昇**」と**予想**します。オリンピックの開催決定とワクチン接種率の上昇を好材料に堅調に推移するものの、下期はオリンピックの反動減や急速な株価上昇により割高感が高まっている銘柄を中心に反落する場面もあり、**上値は限定的になると予想**します。

米国金利は、6月のFOMC会合でテーパリング(量的緩和の縮小)が示唆されたが市場は織り込み済みであり想定内の動きに留まった。良好な経済環境から金利低下余地は限定的である一方、インフレ懸念後退で上昇余地も限定的と考えます。仮にテーパリングが2022年から開始されたとしても急激な金利上昇は想定しにくく、年度末から来年度にかけて**緩やかに上昇するものと予想**します。

米国株式は、金融緩和による過剰流動性やワクチンによる景気回復期待を背景に株価は堅調に推移。好調な企業収益と強い経済統計による安心感から今後も断続的に**上値を試す値動きの荒い展開を予想**します。

為替相場は、ドルに対しては年明け以降米国の株高、長期金利の上昇に伴い円安に転じているものの一方的なトレンドとはいえ、日米ともに金融緩和継続の中で方向感が出にくく、**方向感を探る展開を予想**します。中長期的には日米金利差の拡大から円の上値は重くなり、**ドル高円安に向かうと予想**します。ユーロ・豪ドルに対しては先行きの景気回復と物価上昇が日本よりも早まるとの見通しから**円安基調で推移すると予想**します。

	2021年6月30日 現在値	2021年 9月 期末値予想	2021年 12月 期末値予想	2022年 3月 期末値予想
無担保コールO/N	▲ 0.070%	▲ 0.025%	▲ 0.025%	▲ 0.025%
FF金利	0.250%	0.250%	0.250%	0.250%
長期金利	日本国債10年	0.055%	0.060%	0.060%
	米国債10年	1.467%	1.450%	1.450%
	独国債10年	▲ 0.208%	▲ 0.300%	▲ 0.350%
	仏国債10年	0.128%	0.000%	▲ 0.175%
	日本国債20年	0.440%	0.450%	0.450%
株式	日経平均	28,792	30,000	30,000
	ダウ	34,503	32,000	32,000
	ドル/円	110.61	109.00	109.50
為替	ユーロ/円	131.63	132.00	135.00
	豪ドル/円	83.10	84.50	85.00
マーケットイベント		7月 東京オリンピック 7月 中国共産党100周年	10月 G20サミット(イタリア) 10月 ドイツ首相・議会選挙	2月 北京冬季オリンピック

【注意事項】本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。したがって、投資等についてはご自身の判断によってください。正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

千葉信用金庫、中小企業の景気動向調査へのみなさまのご意見、ご要望をお寄せください。

お問い合わせ：千葉信用金庫 企業サポート部 TEL 043-221-3683 担当：中森 菅谷